

企業名：大塚ホールディングス

レポート名： 統合報告書 2020

1. この会社が目指す姿が理解できるか

聞きなれない単語が統合報告書内に詰め込まれていて、会社が目指す姿を一言で説明することが困難に感じた。ESG に対する取り組みが細分化されており、熱意を感じた。医療で不足している技術をグローバルな規模で考えており、現在取り組んでいる課題も非常に多様であり、かつ専門性が高いため、他企業に対する優位性を確保しているように感じた。世界の人々を健康にというキャッチフレーズからも読み取れるように、技術を開発していくリーダー企業としての責任感が各所に感じられた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

トータルヘルスケア企業という言葉からも読み取れる通り、多様な事業を武器に価値を創造していくことが書かれており、幅広いニーズに答える、または新たにニーズを作り出すことに長けていることが理解できた。独自性という言葉も多用されており、自社の強みを最大限に生かして、他企業との差別化を図っていたため、幅広いラインをカバーしているだけでなく、今後、独自の製品開発、成長を見込めるように感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

アメリカの企業との連携を通じて国際市場への進出を積極的に行っているため海外進出が成功すれば国際的にも競争優位性をさらに上げられるように見えた。国内でも東京マラソンへの協賛を始めとして消費者との距離が近い場所での活動を積極的に行っているため、国内での競争優位性も持続性があるように思えた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

グローバルなネットワークを生かして、連携しながら人材育成を行っていた。デジタル化に対応するための人材育成も独自のプログラムによって行っていた。事業が多様で複雑化はしているものの、各事業の目的がはっきりしており、事業間の関係性に関しても言及している箇所があり、自分に適した場所で能力が高められるように感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書を閲覧する人は様々な目的を持っていると思う。この報告書は全てのページに情報が凝縮されていて図が多く使われているものの、短期間で根幹の情報を得ることは困難に感じた。ページによって情報の密度を変えることで、閲覧者のニーズに幅広く対応できるの

ではないかと感じた。情報量は不足がなく充実しているように感じた。特に役員一人一人のコメントを掲載するのは社外の人に会社の方針や雰囲気を掴むのに有意義な情報であると感じた。